

最近の県内景気動向

平成14年7月31日
日本銀行水戸事務所

【概況】

最近の管内経済動向をみると、輸出の回復等を背景に製造業の受注・生産が持ち直し、企業の景況感にも、暫く底打ちの気配が窺われるが、国内最終需要が低調を続けていること等から改善の足取りは重く、依然低調の域を脱していない。

【消費】

◎大型小売店の売上

大型小売店（県内13か店）売上は、サッカーW杯開催に伴う客足の減少や所得環境の悪化等から低調を続けている。すなわち主力の衣料品は、気温の上昇とともにここにきて動きが出ているが、気温の低い日が続いた6月から7月前半にかけての不振をカバーするには至っていない。また家庭用品や雑貨等も引き続き前年割れが続いている。こうした中、食料品を中心とした中元ギフトについては、早期割引等が奏功し6月は前年を上回ったものの、7月入り後は一転して売れ行きが鈍くなっている。

◎6月の乗用車新車登録台数

6月の乗用車新車登録台数（除く営業用乗用車・軽自動車）は、春先以降発売された人気新型車の売行きが好調な小型車（前年比+1.8%）は引き続き前年を上回っているものの、普通車（同▲23.6%）の落ち込みが大きく、全体では再び前年割れとなった（同▲8.2%）。

◎6月の家電販売

ここにきて伸びが鈍化している。すなわち、乾燥機能を付加した洗濯機、薄型のプラズマディスプレイや高画質のハイビジョンといったタイプのテレビが、ヒット商品として引き続き高い伸びを続けている一方、エアコンは暑気到来の遅れから鈍い出足を余儀なくされ、パソコンは新製品投入にも拘わらず伸び悩んでいる。

◎6月のレジャー関連状況

旅行業者の夏休みの予約状況を見ると、出発直前に予約するケースが増えて、目下のところ出遅れ感があり、加えて所謂「安・近・短」指向も目立つ状況で、取扱高としては、前年をやや下回っている。

【公共・住宅投資】

◎公共工事請負額

4月以降、公団・事業団の常磐自動車道やつくばエクスプレス関連工事に加え、県のダム工事等もあって、前年を大幅に上回っている（前年比：4～6月+31.2%）。もっとも、国や地公体の財政が厳しい折柄、発注量の先細りが懸念されている。

◎5月の新設住宅着工戸数

主力の持家（前年比▲0.3%）は振るわなかったが、貸家が高水準を続けたほか、県南地区で分譲（同4.2倍）の着工が集中したこともあって、全体では前年を上回った（同+10.9%）。

【生産動向】

鉱工業生産・出荷（7年=100、季節調整済）は、昨夏以降低水準で推移していたが、4・5月は一般機械、電気機械等を中心に2ヶ月連続の増加となった（5月、生産指数前月比：+4.1%＜原指数前年比：+4.1%、前年比プラスは13/1月以来1年4ヶ月ぶり＞、出荷指数前月比：+3.8パーセント＜+3.9%＞）。こうした中、在庫調整は引き続き進展している（在庫指数前月比：0.8%＜▲同7.2%＞）

【企業倒産】

6月の企業倒産（負債総額100万円以上）をみると、件数（22件＜前年21件＞）が高水準を続ける中、大型倒産が3件発生したこともあって、負債総額（278億円）は前年（68億円）を大幅に上回った。

茨城県主要経済指標

（前年比、%）

	13年度	14/4	14/5	14/6
大型小売店売上高	▲3.9	▲5.2	▲5.2	▲4.8
乗用車新車登録台数 [除く軽]	▲3.9	4.3	0.9	▲8.2
[含む軽]	▲4.6	5.3	4.6	▲5.4
公共工事請負金額	▲8.0	▲54.5	61.6	3.7
新設住宅着工戸数	▲0.4	15.4	10.9	n. a.
[持家]	▲10.9	9.7	▲0.3	n. a.
産業用電力消費量	▲4.1	2.2	2.1	0.4
[大口電力]	▲4.2	3.3	2.8	0.8
鉱工業指数 [生産]	97.5	97.5	101.5	—
鉱工業指数 [出荷]	91.4	93.7	97.3	—
鉱工業指数 [在庫]	78.4	78.1	78.7	—
有効求人倍率 (倍)	0.63	0.52	0.51	0.51
倒産件数 (件)	235	22	20	22